



臨床美術ジャーナル Vol.1 No.1 (2012) 目次

【巻頭言】

創刊号発刊にあたって

六角 鬼丈 (臨床美術学会会長・東京藝術大学名誉教授)

【創刊号記念掲載論文】 (感性福祉研究所年報第8巻) より転載)

認知症の人物クローキーにおけるスキルの獲得

金子 健二 (東北福祉大学感性福祉研究所・芸術造形研究所) 他

【第1回大会(2009年)基調講演】

科学と人文学—終わりなき対話へ向けて

桑田光平 (東京外国語大学)

【第2回大会(2010年)基調講演】

人と人、人と場所をつなぐ美術の力

北川フラム (アートディレクター)

【第3回大会(2011年)基調講演】

臨床美術の可能性—日々新たに目覚めるために

河本英夫 (東洋大学文学部)

【第3回大会(2011年)シンポジウム】

通所施設「アール・ブリュ」の現状

木村伸 (医療法人社団信悠会 木村クリニック)

【第3回大会(2011年)シンポジウム】

物理量としてのアナログ表現—臨床美術士からの視点—

鍋島次雄 (芸術造形研究所)



【第3回大会（2011年）研究発表】

市民による市民のための臨床美術による認知症予防・改善の実践  
—諏訪市における臨床美術士養成、その活動と成果—

加藤力（芸術造形研究所）

人は何に興味を持ち、何を記憶に残すのか —教育における臨床美術の効用—

黒木彩（芸術造形研究所）

成長モデルとしての臨床美術の可能性 —制作過程で作品を「観る」意味と制作の深化のしくみの考察—  
フルイミエコ（京都〈臨床美術〉をすすめる会・アトリエ苗）

視覚障がい者の絵画制作を可能にするために —臨床美術の役割—

金本啓子（広島芸術専門学校）

0歳児、1歳児からの早期完成教育 —遊びからアート—

手塚元彦（芸術造形研究所）

創作活動がもたらす表現作品と児童の変化について —アート・コムにおける臨床美術の実践を通して—  
菅原布美子（東北福祉大学 社会貢献センター）

再考—子供の美術教育と発達の諸問題 —序・現状課題からの仮説の検討—

保坂遊（聖和学園短期大学）

臨床美術と保育の共通性に関する—考察 —グランデッド・セオリー・アプローチによる分析から—

和田明人（東北福祉大学） 他

【特別寄稿】

臨床美術治療が恐慌障害患者のストレス対処と不安感緩和に及ぼす影響

Sun-Hyun Kim (CHA University) 他